

# 新型コロナワクチン接種についてのお知らせ

## 1・2回目接種は、年内完了をご検討ください

従来型ワクチンによる1・2回目接種は、なるべく年内に接種を終えるよう国から要請されています。オミクロン株対応ワクチンは、1・2回目接種が完了しないと接種できませんので、希望する方はなるべく早めに接種してください。

【1・2回目接種可能医療機関】 公立長生病院（茂原市本納2777） 【接種日】 水曜日

## オミクロン株対応ワクチン接種について

- ・BA.1対応型ワクチン 10月17日㊟接種開始
- ・BA.4 / BA.5対応型ワクチン 12月3日㊤接種開始予定

※国は、いずれのワクチンも従来型ワクチンを上回る効果が期待されており、いずれか早く打てるワクチンで1人1回接種することとしています。

## 接種間隔が短縮されました

3回目以降の接種は、前回接種から3カ月経過後に接種が可能になりました。接種券は接種可能な時期になりましたら順次お送りしますので、お手元に届くまでしばらくお待ちください(申請は不要です)。

【ワクチン接種についての問合せ・予約】 受付時間 8時30分～17時(土日・休日も受付)  
長生郡市予防接種予約受付センター ☎050(3815)4790  
茂原市新型コロナワクチン接種コールセンター ☎050(3815)4770 ※10月12日～12月28日のみ設置



# 市長が行く

## 自治体の貯金「財政調整基金」

No.143

茂原市長 田中豊彦



10月10日付け日本経済新聞に、自治体の「貯金」とも言われる財政調整基金が、全体で8・6兆円まで膨らんでいるという記事が載りました。財政調整基金は災害時など必要なとき使える財源として、自治体が毎年の余剰金などから積み立てている基金です。総務省は、地方税などで

この適正水準が本当に正しいのかについては、私は疑問を持っていません。東京都(普通交付税不交付団体)は、コロナ前まで9,000億円超の基金があったそうですが、コロナやオリンピックの関係もあつたのか、21年度途中には21億円まで激減したそうです。しかし、その後7,272億円まで回復して、国を待たず、独自の対策を打てるように」基金を再び積み上げています。また、岐阜県飛騨市(交付団体)は、標準財政規模の5割強の60億円を確保しているそうです。飛騨市では、災害時の初期対応に必要な市民一人当たりの額から逆算して出したとしています。国が災害時に財政を支援する

ことを考えると、そんなに積む必要はないのではないかと、いざ災害に遭うと、国は災害規定に準じて補助金を出してくるので、思ったように自由に使うことはできません。それにもすぐには反映されず、自治体の裁量で当面の間対応した後になるので、急場の財政支出は自治体任せとなります。

経常的に得られる歳入に相当する「標準財政規模」の5～20%を財政調整基金高の目安にする市町村が多いとされています。茂原市の場合、約197億円(標準財政規模)の5～20%ということは、約10億～39億円ということ、現在の基金残高約35億円は適正水準と見なされます。この基金も、私の就任当時は2～3億円で、本当に心もとないものでしたが、その後、借金を返しながらも積み立てを続け、約50億円にまでなりました。

茂原市の令和元年の水害において、財政調整基金が、新たな借金を切った後処理もでき、その後市の財政運営を、新たな借金をしないでできたのだと思っています。地震、台風などの自然災害、コロナなどの疫病、これだけ頻繁に災害が襲ってくる時代には、想定外の大きな支障が伴います。そうしてみると、この財政調整基金の積み上がり方も、うなずけるものがあるのです。

